

携帯電話向け電子コンパス市場に関する調査結果 2009

— 携帯電話向け電子コンパスはスマートフォンを中心に1億個を突破 —

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて磁気センサの注目市場について調査を実施、ここでは携帯電話向け電子コンパス市場について取り上げる。

1. 調査期間:2009年9月～11月
2. 調査対象:磁気センサデバイス、磁気センサモジュール、搭載機器
3. 調査方法:当社専門研究員による直接面談、電話・e-mailによるヒアリング、ならびに文献調査併用

<携帯電話向け電子コンパスとは>

電子コンパスとは、ホール素子やMI素子などの磁気センサと周辺回路等を実装している電子デバイスの総称。磁気センサによって微弱な地磁気を検出する事によって方位を検出する事が可能であり、携帯電話ではGPSの位置情報と組み合わせる事によって高性能なナビゲーション機能が可能となる。2軸と3軸タイプがあるが、携帯電話で使われているものは自動で磁気補正する3軸タイプであり、ここでは携帯電話向け電子コンパス市場について3軸タイプを対象とする。

【調査結果サマリー】

◆ **2009年世界の携帯電話向け電子コンパス市場規模は、スマートフォンを中心に採用機種が増加、メーカ出荷数量ベースで前年比779.1%増の1億110万個に達する見込み**
2007年までは国内携帯電話に採用が限定されており、出荷数量も200～300万個の横這いで推移していた携帯電話向け電子コンパス市場であるが、2008年よりスマートフォンを中心に海外主要メーカで採用が活発化し、2009年はメーカ出荷数量ベースで1億110万個に達する見込みである。

◆ **世界の携帯電話における2009年の電子コンパス搭載率は9.2%となり、2008年から大きく上昇、2015年の電子コンパスの搭載率は30.4%を予測**
2009年世界の携帯電話向け電子コンパス搭載率は9.2%となり、2008年の1.0%から大きく拡大する見込みである。特に様々なアプリケーションを搭載しているスマートフォンでの採用が急速に進んでおり、今後は歩行者ナビゲーション機能強化の面から、電子コンパスの搭載率は2015年には30.4%まで上昇する。一方、国内市場においても海外メーカの積極的な採用動向の影響を受けて、2010年の搭載率は50%に達すると予測する。

◆ 資料体裁

資料名：「磁気センサの注目市場と将来分析 2009-2010」
 発刊日：2009年11月30日
 体裁：A4判 102頁
 定価：136,500円（本体価格130,000円 消費税等6,500円）

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地:東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長:水越 孝
 設立:1958年3月 年間レポート発刊:約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

(株)矢野経済研究所 営業本部 広報・PRグループ TEL:03-5371-6912 E-mail:press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報・PRグループ迄お問合せ下さい。

【 調査結果の概要 】

1. 市場概況

携帯電話向け電子コンパスは2004年から製品化されてきたが、2007年までは国内市場を中心に採用機種も数機種に限定されたため、世界の携帯電話向け電子コンパス市場規模はメーカ出荷数量ベースで、200~300万個の横ばい状態が続いていた。

しかし2007年末に大手インターネット会社が携帯電話向けOSを発表し、2008年に台湾の大手メーカが同OSを搭載した携帯電話を製品化したことがきっかけとなり、2008年の世界の携帯電話向け電子コンパス市場はメーカ出荷数量ベースで、1,150万個に拡大した。同OSを搭載したスマートフォンは、GPSの位置情報と組み合わせた歩行者ナビゲーション機能が特徴の1つであり、この機能を実現するために電子コンパスは必須のデバイスとなる。このため、2009年には大手携帯電話メーカもスマートフォンを中心に電子コンパスの採用を積極的に推し進めていることから、2009年の世界の携帯電話向け電子コンパス市場はメーカ出荷数量ベースで、前年比779.1%増の1億110万個に達する見込みである。

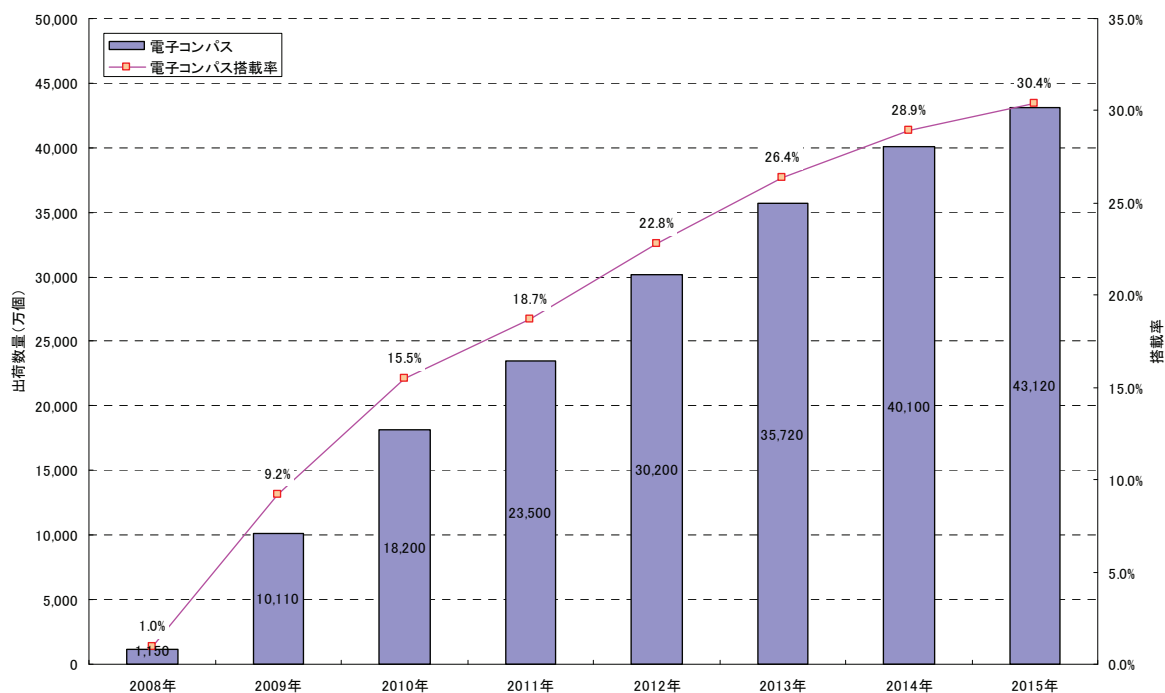
2. 主要携帯電話メーカの動きと予測

スマートフォンはウェブブラウザやナビゲーションなどの機能が集約・連動される傾向にあり、海外携帯電話メーカではGPSと電子コンパスを内蔵した高機能歩行者用ナビゲーションは今後の販売拡大の上で重要サービスと位置付けている。このため、大手携帯電話メーカでは、地図データやルート検索、旅情報サービス会社等を積極的に買収しており、今後はナビゲーション機能を軸とした総合的なサービスを展開していく計画である。また、スマートフォンとPND(ポータブルカーナビゲーション)の融合が進む可能性も高く、この面でもナビゲーション機能の重要度は増しており、電子コンパスの市場拡大要因となる。このため、世界の携帯電話における2009年の電子コンパスの搭載率は9.2%まで上昇し、2010年の搭載率は15.5%、メーカ出荷数量ベースで1億8,200万個と予測する。

一方、国内市場については、海外メーカの影響を受けて2010年より電子コンパスの搭載が進む可能性が高く、携帯電話向け電子コンパスの搭載率は50%に達すると予測する。

また携帯電話機種のうち、ハイエンド、およびスマートフォンについては2015年までに100%近い搭載率となり、ミドルエンドについても一部の機種で採用が進む傾向にある。新興国向けのローエンドについては、通話機能に限定されることから電子コンパスの搭載は難しいと考えられる。

したがって、2015年には携帯電話向け電子コンパスの搭載率は30.4%まで上昇、メーカ出荷数量ベースで4億3,120万個、年平均成長率は67.8%で推移すると予測する。

図表 1. 世界の携帯電話向け電子コンパス市場規模予測


矢野経済研究所推計

(単位:万個)

| | 2008年 | 2009年 (見) | 2010年 (予) | 2011年 (予) | 2012年 (予) | 2013年 (予) | 2014年 (予) | 2015年 (予) |
|---------------|-------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 電子コンパス 前年比 | 1,150 | 10,110 | 18,200 | 23,500 | 30,200 | 35,720 | 40,100 | 43,120 |
| 電子コンパス 搭載率 | 1.0% | 9.2% | 15.5% | 18.7% | 22.8% | 26.4% | 28.9% | 30.4% |

矢野経済研究所推計

注 1:メーカー出荷数量ベース

注 2:(見)は見込値、(予)は予測値